

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174800480		
法人名	有限会社 啓愛の里		
事業所名	さくら		
所在地	埼玉県秩父郡小鹿野町般若821		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	平成27年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成27年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念を念頭に置き、入居者一人ひとりのペースに合わせた活動や生活を心掛け、職員同士が協力し合い助け合っている。入居者の立場に立った物の考え方、声掛けなどをし、その日その日の業務の中で日々向上に努めている。花壇に野菜・草花を植え、水くれをしたり、収穫を楽しみ外へ出る機会を多くし、四季を生活に取り入れている。また、地域の方との触れ合いを大事にし、地域の行事やお祭り、小中学校の運動会などに積極的に参加している。家族の方が来所しやすいグループホーム作りを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者1人ひとりにどのようなケアが最適かを職員自ら考え共有することで、利用者本位の支援に努められると共に、事業所の立地環境を活用した、積極的な地域との協力関係も進められている。
 ・ご家族のアンケートでも、「少数なので職員の目がいろいろな形で行き届いているように感じる。変わったことがあるとすぐに連絡してくれるのもありがたい」、「若い職員の方が多くにも関わらず、認知症の事をよく理解されていると感心しております」などの評価が寄せられ、ご家族が現在のサービスに十分満足され、職員の皆さんの支援や対応について、高い評価が得られている。
 ・目標達成計画については、事業所の立地条件を活かした外出が積極的に行われ、また、年2回の避難訓練が行われると共に近隣の協力者名簿が整備されたことなどから、目標の達成が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時などに、理念を基に具体例を出し、実践へのつながりについて話し合っている。	利用者1人ひとりにどのようなケアや支援をしていくのが最適かを、職員自らが考え話し合い、役割も明確にして、それぞれの利用者の思いを叶えることで、理念の実践に繋がられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物に出たりして声を掛けたり、掛けられたり交流している。小学生が授業の一環として来所し交流をもっている。	祭りの多い地域なので、積極的に祭りに参加したり、小学校との交流や入居以前からの地元の人との付き合いを続けるなど、双方向の交流がなされている。また、地元の学校長・郵便局長・警察署長とも地域の一員としての付き合いを持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小鹿野町高齢者見守りネットワークの委員会のメンバーでもあり、町内の相談窓口にもなっている。家族の方や地域の方からの相談があれば、いつでも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	消毒液の業者の方に感染対策の講義をしていただき対応の知識を深めた。ホームで使用している次亜塩素酸液の効能と取扱い方を知っていただき、事業所の理解を深め意見交換を行った。	定期的開催され、利用者や事業所の状況報告に加え、行事や地域の高齢者を支えるための情報、介護保険の改正などの説明や情報の交換が行われ、汲み取られた意見や要望はサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の職員の方に運営推進会議にも参加していただき、日頃から交流をもっている。市町村の地域包括支援センター、在宅介護支援センターとも交流を持っている。	利用者の状況や空き室情報の共有、介護保険関係の問い合わせへの解答などが適切に行われている。また、町主催の「見守りネットワーク」に参加し、支援を必要とする人と提供されるサービスのマッチングに取り組むなどの連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修や外部研修に参加しミーティングなどで情報の共有をしている。	ユニットだけでなく併設の事業所の人的応援体制も得ることで、外出願望の強い利用者に対しても1人ひとりに寄り添うことや一緒に物事を行うことを徹底するなど、身体拘束を必要としないケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で言葉づかいなどに常に注意している。虐待につながる危険がある部分の改善や話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加しミーティングなどで情報の共有をしている。その様な制度利用が必要と思われる方に対しては、家族などに説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問があったらいつでも受け付けることを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望書を用意し、いつでも家族等が意見が言えるようにしている。面会時にも要望など伺うようにしているが、運営推進会議の時にも聞くようにしている。	利用者とは日常の関わりの中で、家族には傾聴力を持って聴くことで会話を促し、要望書も用意することで、話の苦手な方への配慮もなされている。また、汲み取られた要望や意見には必ず回答をすると共に、検討を経て、運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が毎日の申し送りに参加し、意見や問題点など聞き把握し、改善に努めている。行事など職員が中心で進め、管理者も見守っている。	何時でも何でも話しやすい環境が作られており、職員が自ら考え発案したことは、職員皆に検討させ、積極的に試してみることが進められている。また、必要に応じたセッションがなされ職員のストレス対策も含めて、運営に反映されている。	職員が自ら考えたことは、積極的に試してみる環境が作られ、効果も上がっていますが、職員の目線で捉えたことを、より積極的に活用されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の状況に合わせ激励したり、日常的に本人の意欲の向上が図れるように相談や悩み事を聞く態勢を取り、職場環境等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加やホーム内研修を実施している。日常でもケアに対する疑問や不安点について話し合い日々向上に努めている。介護福祉士受験のための勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に参加するなどしている。合同で研修会なども計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴をふまえたうえで納得できる声掛けを工夫している。家族からの情報や協力を大事にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	通院、買い物など、どんな細かいことでも家族に相談や説明をし、行うようにしている。いままでの家族の苦しみ、心配など、家族の介護負担軽減の面からもよく耳を傾けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と相談しながら、個々の要望に添うような対応になるよう努めている。生活歴をみながら本人に会う対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には友人になり、時には家族になり、入居者さんに安心してもらうにはどうしたら良いかを常に考えている。できることは行ってもらうよう心掛け、協力しながら生活している。料理の作り方、昔の風習などを聞いて役立てている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が共に考え、本人にとって何が良いかを見い出して行く。ホームの行事の参加や定期的な面会などのお願いをし、家族と一体となり支援している。家族の思いを大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方の面会や、家に帰ったり墓参りなどに行けるよう、家族に相談しながら支援している。買い物に行った時など近所の人と会い会話をしている。	友人・知人の来訪が多く、家族の了解を得た方には、いつでも自由に来ていただいている。また、家族・親戚の協力を得て誕生日を自宅で過ごしたり、墓参りや法事に職員が同行して出席するなど、馴染みの関係継続の支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に見守りを行い、会話などにも職員が入り他の入居者と関わりが持てるようにし、トラブルが起きないようにしている。入居者同士で支え合っている場面があり職員も支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	なんらかの要因で退所になる場合でも相談に応じ、その後の生活が困らないように相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの要望を受け入れ対応することに努めている。困難な場合には職員で話し合いを行っている。	利用者の職歴や生活歴を捉えて、1対1の時間を作って知って欲しい・聴いて欲しい気持ちを満たすように話を聴き、利用者本位に検討されている。また、家族とも情報を共有し、重度の問題行動の利用者への対応を成功させた例も見受けられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや生活歴シートを使用し、本人や家族の方から情報を得て、共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録の充実と申し送りの共有化をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスやミーティングを行い、職員同士が話し合い、本人や家族の要望や希望を聞き、それぞれの意見を取り入れた介護計画を作成している。困ったときには家族も駆けつけてくれる。	利用者担当を中心に全職員でモニタリングがなされ、その記録を基にカンファレンスを行い、医師の意見や家族の要望を反映させ、現実に即した介護計画が作成されている。また、利用者の状況の変化に応じた、計画の見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子や変わった事など、ケア記録に記入し、職員がいつでも読めるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々の変化に対応し、家族や本人の要望に機能的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出傾向の強い方の特徴を伝えたり、小学生に来所してもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があった場合は対応している。体調の変化があった場合は、家族に連絡を取り、休日でも受診できるような関係を築いている。	休日対応が可能な、提携医療機関を中心に受診が行われ、従来のかかりつけ医の受診も職員中心に行われ、利用者の受診前後の様子や医師の処方などを家族に伝えると共にその後のケアに活かされ、適切な医療を受けられる支援がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職が常勤しており必要に応じて相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や医療機関と相談し、日々の様子など、面会に行き本人の状況の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の方と話し合い、重度化した場合の対応など相談をしている。	入居開始時に、重度化と終末期への対応について、事業所としてできることを説明すると共に、状況の変化に応じて話し合いを重ね、本人と家族の希望や実情に応じて、最適となる終末期の選択が行えるように、医師・看護師を含めて、助言と支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時、消防員を招き指導を受けている。緊急時の対応についてマニュアルを作り話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。近隣の方にも協力してもらえる態勢になっている。	夜間想定を含め年2回の避難訓練が行われ、自力避難ができない利用者の避難方法を検討し、職員の役割分担や優先順位を明確にすると共に、近隣の協力者名簿が整備されている。	職員の役割分担や優先順位を明確にすると共に近隣の協力者名簿も整備されていますが、今後も、工夫した訓練と地域との協力の継続を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けを心掛けている。居室にて話しをする時もある。	知られたくないことや聞かれたくないことに対する配慮がなされると共に、不穏な利用者に対しては、見守ることを他の利用者にも理解してもらうように努め、プライバシーの確保と安全の両立に注意が払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物など一緒に行き、本人の好きな物を買えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人がその時何をしたいか聞き、やりたい事を尊重し見守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる人には本人に服を選んでもらい、好きな服を着てもらっている。化粧品なども好みの物を使用し、購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや片付けなど一緒にしてもらっている。うどん作りなども計画し利用者さんと一緒に作ったり、料理の仕方など入居者に聞きながらする時もある。	管理者と職員で作成された献立は、郷土色や季節感に溢れ、三食とも汁物を付けるなど利用者への配慮がなされている。また、外食や弁当を作ったの外出も行われ、多彩な食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取チェック表を活用し、その人の食事量を把握するようにしている。病状により、医師と相談しその人に合った摂取量等を決めたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行っている。義歯を使用している人は、就寝前に洗浄剤に浸けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、一人ひとりに合ったトイレ誘導を行っている。尿意がない人には、2時間置きの声掛けや誘導をしている。	夜間を含めてトイレでの排泄を原則とし、1人ひとりに合わせた声掛けや定時誘導が行われており、生活のリズムを大事にした自立支援により、退院後の利用者に尿意・便意の感覚が戻り、自立度が上がった例も見受けられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し常に排泄に気を配り、便秘気味の方には水分量などに留意し医師に相談しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則入浴日は、月・水・金曜日の午前中に行っている。その日の体調や入浴拒否のある方には、それ以外でも入浴できるよう対応している。	週3回の入浴を原則としているが、希望や状況に応じてそれ以外の入浴も可能であり、拒否の強い方には、タイミングや担当者を変えるなど無理強いないで対応されている。また、温泉(硫黄泉)が引かれていることも入浴の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて休める時間を確保している。夕食後はゆったりした時間を過ごし就寝されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方が飲んでる薬剤の種類や効能、副作用などの表をファイルしいつでも見られるようにしており、服用にて異常があるかどうかの判断は常に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で役割を持って過ごせるよう支援している(食器洗い、掃除など)。また手芸など趣味なども実施できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があった場合はその都度対応している。買い物なども入居者の方と一緒にしている。近所の行事などにも参加している。	日常的に散歩や利用者の希望に合わせた買い物、野菜の収穫などの外出が行われている。また、多くの神社の祭りや運動会などの学校行事、季節ごとの花見など、地域の社会資源と自然環境を活かした外出も、活発に行われている。	地域性と自然環境を利用して、積極的に外出支援がなされていますが、利用者の高齢化に伴い一人ひとりの心身の状況に応じた外出のあり方について、より検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルになる以外は本人に所持してもらっている。希望の商品の購入ができるように買い物へ出掛けたり、会計もできる限り本人に行ってもらえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は希望があった場合対応している。手紙は希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子でも使用しやすいような高さの洗面台やトイレの場所が分かりやすいような配色になっている。	大きな絵画や利用者の作品が飾られた共用空間は、ソファや冬場の掘り炬燵などが置かれ、家庭的な雰囲気の中で、利用者が思い思いに過ごせる場所となっている。また、自由に過ごしていただくことと安全のため目が届くことの双方に注意が払われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファを置き、自由に座れるようにしている。冬はこたつを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で本人が使用していた物や馴染みのある物をなるべく持って来てもらうようにしている。	利用者が愛用されていたものや使い慣れた家具などを持ってきていただき、入居前の生活習慣に近づけた居心地の良い居室が作られている。また、利用者と職員が協力して清掃が行われ、共用空間共々清潔に維持されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置など解りやすい用に配色や照明をしている。トイレや廊下、玄関など手すりを設置している。		

(別紙4(2))

事業所名 さくら

目標達成計画

作成日: 平成27年 5月26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員が自ら考えたことは、積極的に試してみる環境が作られ、効果も上がっているが、職員の目線で捉えたことを、より積極的に活用していきけるよう検討していく。	入居者さんのやりたいことを職員目線で見出す。	入居者さんの要望を取り入れて実現化していく。	12ヶ月
2	35	職員の役割分担や優先順位を明確にすると共に近隣の協力者名簿も整備されているが、今後も、工夫した訓練と地域との協力体制を継続していく。	訓練等を継続し協力意識を高めてもらう。	訓練時等に必ず近隣の方に声掛けをし、協力をお願いする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。